広島大学大学院教育学研究科 音楽文化教育学研究紀要 XXI　2009. 3. 22

高等学校の生徒を対象とした歌唱経験に関する一考察

井　上　　明
（広島県立黒瀬高等学校　本講座大学院博士課程前期在学）

Ⅰ　研究の動機

平成18年度より広島県公立高等学校の入学学区が全県一区となったことに伴い，様々な音楽の授業経験をもつ生徒が所属校に入学してくることとなった。所属校で使用している教科書[1]には，文部省唱歌をはじめ，小・中学校の音楽科教科書に掲載されている楽曲がいくつか含まれているが，これらの楽曲を既習曲として捉え指導する際に，それまでの授業経験の差異により様々な反応が見られた。現行高等学校教科書の歌唱教材をより効果的に取り扱い，指導内容及び展開を工夫するためには，所属校生徒の小・中学校における歌唱経験を把握することが必要であると考える。

Ⅱ　研究の目的

本研究は，高等学校生徒の小・中学校時の音楽科教科書歌唱教材に関する質問紙調査を行い，その結果を分析することにより，各楽曲の認知度，歌唱経験の有無，各楽曲に対する嗜好，及び学年・性別による差異等を明らかにすることを目的とする。

Ⅲ　調査結果の概要

1.　調査対象，調査時期，調査方法

調査対象	所属校生徒1，2年生（平成19年度及び平成20年度入学生）205名
調査時期	平成20年7月中旬
調査方法	自己記入式による質問紙調査。なお，楽曲の実音聴取を伴う設問を45分間ずつの2回に分けて実施した。

2. 調査内容

(1)	学年及び性別
(2)	芸術選択履修科目
(3)	出身小学校及び出身中学校
(4)	小・中学校時の音楽の授業に関して ア　小学校の音楽の授業で歌うことは好きだったか イ　中学校の音楽の授業で歌うことは好きだったか
(5)	小・中学校時の音楽科教科書に掲載されていた全歌唱教材（236曲）の1曲ずつに関して ア　楽曲を知っているか イ　楽曲を授業で歌ったか ウ　楽曲を好きであるか エ　一番印象に残った楽曲とその理由

[1] 畑中良輔他『MOUSA1』（平成18年3月検定済）教育芸術社，2007，畑中良輔他『MOUSA2』（平成19年3月検定済）教育芸術社，2008。

3. 調査で使用した楽曲

平成19年度入学生（高2）及び20年度入学生（高1）が小学1年～中学3年に在学中に，教科書の改訂が3回なされているため，当時使用した教科書は小学2年，4年，中学2年でそれぞれ異なっている。

双方の教科書で一部異なっている楽曲に関して，授業で学んだ可能性もあることを考慮し，今回の調査では双方の教科書に掲載された全ての楽曲（236曲[2]）を用いることとした。なお，調査で使用した教科書は表1のとおりである。

表 1　調査対象者が使用した教科書

教　科　書　名	H19年入学生	H20年入学生
市川都志春ほか『小学生のおんがく1』教育芸術社（以下すべて同社）平成7年検定済　1996	○	○
市川都志春ほか『小学生の音楽2』平成7年検定済　1996	○	
畑中良輔ほか『小学生の音楽2』平成11年検定済　2001		○
畑中良輔ほか『小学生の音楽3』平成11年検定済　2001	○	○
畑中良輔ほか『小学生の音楽4』平成11年検定済　2001	○	
畑中良輔ほか『小学生の音楽4』平成13年検定済　2002		○
畑中良輔ほか『小学生の音楽5』平成13年検定済　2002	○	○
畑中良輔ほか『小学生の音楽6』平成13年検定済　2002	○	○
畑中良輔ほか『中学生の音楽1』平成13年検定済　2002	○	○
畑中良輔ほか『中学生の音楽2･3上』平成13年検定済　2002	○	
畑中良輔ほか『中学生の音楽2･3上』平成17年検定済　2006		○
畑中良輔ほか『中学生の音楽2･3下』平成17年検定済　2006	○	○

4. 調査対象者の内訳

調査対象者の内訳は，表2のとおりである。

表 2　学年別，性別及び芸術選択履修別人数

性　別	男　子			女　子			合　計
芸術選択	音　楽	美　術	書　道	音　楽	美　術	書　道	
高校1年	13	25	17	17	17	18	107
高校2年	6	15	12	31	18	16	98
合　計	19	40	29	48	35	34	205

5. 小・中学校時の音楽の授業について

(1) 小学校の音楽科授業で歌うことは好きだったか

「小学校の音楽の授業で歌うことが好きだったか」という設問に対して，「好き」「どちらかといえば好き」「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の4つの選択肢を設け回答を求めたところ，図1のような結果となった。

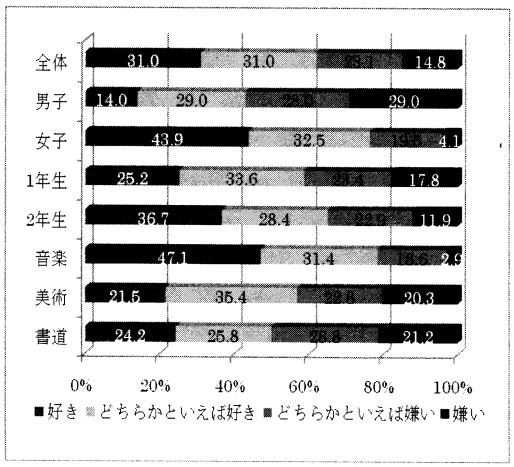

図 1　小学校の音楽科授業で歌うことが好きだったか（数値は%を表わす）

「好き」または「どちらかといえば好き」と回答した割合に着目してみると，全体の62.0%がそれに該当していることが分かる。同じ部分を男女間で比較すると，女子は76.4%であるのに対し，男子は43.0%に留まっており，女子が33.4ポイント上回っている。従って，小学校の音楽科授業で「歌うことが好き」だった割合は男子よりも女子が多いことが分かる。次に学年ごとに同じ部分を比較すると，2年生が65.1%であるのに対し，1年生は58.8%であり，2年生の方が6.3ポイント上回っている。また，芸術選択履修別に同じ部分を比較すると，音楽選択者が78.5%と圧倒的に高く，美術選択者の56.9%と書道選択者の50%を，それぞれ21.6ポ

イント，28.5 ポイント上回っている。結果的に，小学校の音楽科授業で「歌うことが好き」だった割合が，書道選択者が最も低いことが分かった。

(2) 中学校の音楽科授業で歌うことは好きだったか

続いて「中学校の音楽の授業で，歌うことが好きだったか」という設問に対して，同様の選択肢を設け回答を求めたところ，図 2 のような結果であった。

小学校と同様に「好き」または「どちらかといえば好き」と回答した割合に着目してみると，全体の割合が 58.8%であり，小学校のときよりも全体的に 3.2%減少したことが分かる。

また同じ部分を男女間で比較すると，女子が 74%，男子が 38.7%で，小学校の時よりも，それぞれ 2.4%，4.3%減少している。ところが，学年別の比較でみると，2 年生は小学校のときよりも 7.3%減少しているのに対し，1 年生では積極的に「好き」は減少しているものの，「どちらかといえば好き」までを含めると，1%増加している。

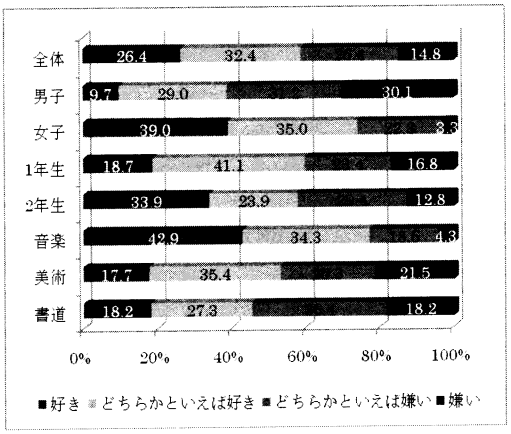

図 2　中学校の音楽科授業で歌うことが好きだったか（数値は%を表わす）

次に芸術選択履修別の比較をすると，音楽が 77.2%，美術が 53.1%，書道が 45.5%であり，小学校のときよりも，それぞれ 1.3%，3.8%，4.5%減少しており，美術，書道選択者は小学校から中学校にかけて音楽科授業で歌うことが嫌いな割合が増えてゆき，結果的に高等学校の芸術選択に影響を与えたとも考えられる。

6. 小・中学校時の音楽科教科書に掲載されていた全歌唱教材（236 曲）に関して

(1) 楽曲を知っているか

小・中学校音楽科教科書の全歌唱教材について，音源（筆者の伴奏つき独唱の録音）を使用し，楽曲の認知度を調査した。それぞれの楽曲について，聴取を伴いながら「知っているか」と尋ね，「はい」または「いいえ」と回答を求め，「はい」と回答した割合を算出した。表 3 は，認知度の割合が高かった順に，楽曲名及び回答者の割合を上位 20 位，下位 20 位のみ示した。

表 3　楽曲を「知っているか」と尋ね，「はい」と回答した割合の高い順（上位 20 位，下位 20 位）

全体の順位	楽曲名	全体の割合（%）
1	きらきらぼし	100
1	もりの　くまさん	100
1	おもちゃの　ちゃちゃちゃ	100
1	きみがよ	100
1	はるが きた	100
6	翼をください	99.5
6	旅立ちの日に	99.5
8	ちゅーりっぷ	99.5
8	いぬの　おまわりさん	99.5
8	ぞうさん	99.5
8	ぶん ぶん ぶん	99.5
8	うみ	99.5
8	かえるの がっしょう	99.5
8	あわてんぼうの　サンタ　クロース	99.5
8	Believe	99.5
16	めだかの　がっこう	99.0
16	あいあい	99.0
16	さんぽ	99.0
16	ドレミの うた	99.0
20	ふるさと	98.6
20	赤とんぼ	98.6
217	こころあわせて	8.0
219	すてきな　おと	7.6
220	タンブリンの　わ	7.1
221	花の歌を歌ったら	7.1

222	林の朝	6.2
223	望郷の歌	6.1
224	ぺんぎんさん	5.2
224	リボンのかけ橋	5.2
226	憧れはいつも	5.2
227	すなはま	4.8
228	コーヒーはいかが	4.7
228	若い翼は	4.7

230	たつのおとしご	3.8
231	地球の回る速さで	3.8
231	希望色の予感	3.8
233	ヴィヴ　ラ　コンパニー	2.8
234	風の中の青春	2.4
234	夢，遥か	2.4
236	風の民の歌	1.9

以上の結果を分析すると，調査対象者の半数以上が知っている楽曲は92曲で，全236曲の約4割であった。一方で知っている割合が5割未満の楽曲は144曲あり，全体の61%にあたる。

図3は，楽曲認知割合を10%ごとに区切り，それぞれの区分に該当する楽曲数を表したものである。これによると，90%以上が認知している楽曲数が47曲で最も多く，全楽曲の約2割に相当する。そして認知割合30%未満の楽曲数が102曲で全体の4割以上を占めている。

次に，楽曲認知度の上位50曲と下位50曲について，それぞれが掲載されていた教科書の学年ごとに楽曲数を整理した結果を，図4に示す。これによると，上位50曲のうちの半数が小学校低学年の掲載曲であり，下位50曲のうち約半数が中学校の掲載曲である。

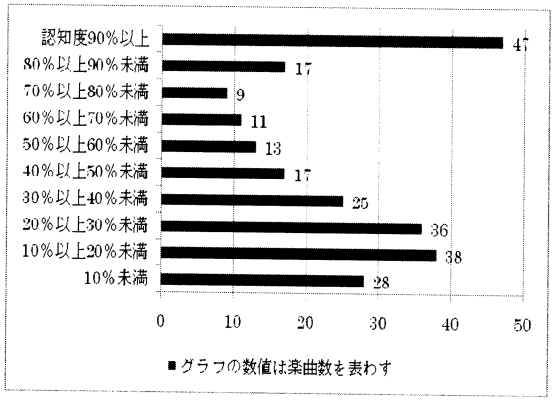

図3　楽曲の認知割合ごとの楽曲数

(2)　楽曲を音楽科授業で歌ったか

次に，楽曲の歌唱経験を調査した。それぞれの楽曲について，「音楽の授業で歌ったか」と尋ね，「はい」「いいえ」「覚えていない」の中から回答を求め，「はい」と回答した割合（%）を調査対象ごとにまとめた。このうち「はい」と回答した割合の高い順に上位30位までを表4に示す。

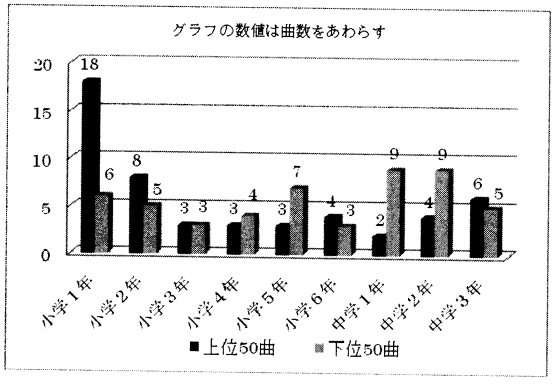

図4　楽曲認知度の上位50曲，下位50曲の学年別曲数

表4「楽曲を音楽の授業で歌ったか」と尋ね，「はい」と回答した割合が高い順（上位30位）

全体の順位	楽曲名	全体の割合(%)
1	きみがよ	97.1
2	Believe	96.2
3	翼をください	94.8
4	ふるさと	93.4
5	旅立ちの日に	89.2
6	マイ　バラード	87.3
7	仰げば尊し	85.4
8	夢の世界を	83.5
9	ドレミの　うた	82.9
10	Tomorrow	82.5
11	花	81.6
12	かえるの　がっしょう	81.4

13	もみじ	81.0
14	はるが きた	80.0
15	さんぽ	79.0
15	きらきらぼし	79.0
17	この星に生まれて	77.7
18	あわてんぼうの　サンタ　クロース	76.7

19	小ぎつね	74.8
19	うみ	74.8
21	もりの　くまさん	74.3
22	かっこう	73.3
23	静かにねむれ（主人は冷たい土の中に）	72.4
24	エーデルワイス	70.8

25	パフ	70.5
25	夕やけこやけ	70.5
27	赤とんぼ	70.3
28	たきび	70.0
29	心の中にきらめいて	69.3
30	シャボン玉	68.9

図5は，楽曲の歌唱経験割合を10%ごとに区切り，それぞれの区分に該当する楽曲数を表したものである。

これによると，調査対象者全体の5割以上が歌唱経験があるとした楽曲は59曲（25%）であり，楽曲認知度との隔たりがあることが分かる。さらに，全体の歌唱経験が10%未満の楽曲が81曲あり，全調査楽曲の34.3%にあたる。

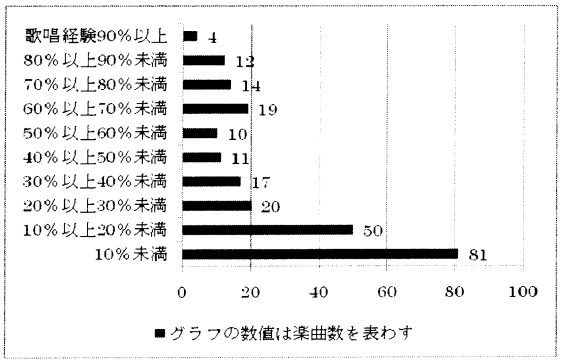

図5　調査対象者の歌唱経験水準ごとの楽曲数の推移

歌唱経験が90%を超えた上位4曲について考察すると，国歌「君が代」は全ての学年の教科書に掲載されており，「翼をください」は小学6年，中学2年の教科書に，また「ふるさと」は，現行の教科書から中学校の全校合唱における教材として，全学年の音楽科教科書に掲載されるようになった。従って，歌唱の機会が増えた結果が反映していると思われる。

(3)　楽曲を好きであるか

次に，楽曲の嗜好度を調査した。それぞれの楽曲について，「好きであるか」という設問を行い，「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」「どちらでもない」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の5段階の評定尺度を設け回答を求めた。各楽曲の評定平均値を算出した結果について，値の高い順に上位30位及び下位30位を表5に示す。

表5　楽曲嗜好度の5段階評定平均値（上位30曲，下位30曲）

嗜好度の順位	楽曲名	5段階評定の平均値
1	旅立ちの日に	4.0
2	Believe	4.0
3	翼をください	3.8
4	Tomorrow	3.8
5	マイ　バラード	3.8
6	あわてんぼうの　サンタ　クロース	3.7
7	この星に生まれて	3.7
8	友達でいようね	3.7
9	さんぽ	3.7

10	もりの　くまさん	3.7
11	想い出がいっぱい	3.7
12	夢の世界を	3.6
13	カントリー ロード	3.6
14	心の中にきらめいて	3.6
15	パフ	3.6
16	きらきらぼし	3.6
17	子どもの世界	3.6
18	仰げば尊し	3.5
19	うみ	3.5
20	おもちゃのちゃちゃちゃ	3.4
21	ドレミの うた	3.4
22	ゆかいなまきば	3.4
23	さようなら	3.4
24	たきび	3.4

25	時の旅人	3.4
26	たなばたさま	3.4
27	シャボン玉	3.4
28	ラヴァース コンチェルト	3.4
29	歌よ ありがとう	3.4
30	はるが きた	3.4
207	えがおで きょうも	2.6
208	こころあわせて	2.6
209	ヴィヴ　ラ　コンパニー	2.6
210	てと てで あいさつ	2.6
211	タンブリンの　わ	2.6
212	花の歌を歌ったら	2.6
213	ハロー ハロー	2.6
214	秋にさよなら	2.6

215	たつのおとしご	2.6
216	春って　いいね	2.6
217	三びきの　こぶた	2.6
218	夢，遥か	2.6
219	いも虫　ごろごろ	2.6
220	白いライオン	2.6
221	風の中の青春	2.6
222	すなはま	2.6
223	ぞうさんと　こりす	2.6

224	アンデスの祭り	2.6
225	コーヒーはいかが	2.6
226	気球よ　ぼくらのゆめのせて	2.6
227	とんくるりんぱんくるりん	2.6
228	かり　かり　わたれ	2.6
229	けんけん　ぱ	2.6
230	越天楽今様	2.6

231	すてきな　おと	2.6
232	ばす　ばす　はしる	2.5
233	さよなら	2.5
234	地球の回る速さで	2.5
235	しゃべるで　ほい	2.5
236	ひのまる	2.5

楽曲を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した割合が半数を超えたのは，調査対象者全体で 14 曲であったが，これを調査対象ごとにみると，1 年生では 7 曲，2 年生では 21 曲であり，差異が大きいことが分かる。また，男子ではわずか 4 曲であるのに対し，女子では 24 曲あり，男女間の差異も大きい。同じく，芸術選択履修別にみると，音楽履修生は 20 曲，美術履修生は 10 曲，書道履修生は 9 曲となり，音楽履修生と美術・書道履修生との差異が大きいことが分かる。

(4)　9 年間で 1 番印象に残った歌唱曲とその理由

9 年間で 1 番印象に残った歌唱曲を自由記述により尋ねたところ，表 6 のとおりであった。なお「掲載学年」の中の数字は，1〜6 が小学校の各学年を表わし，7〜9 が中学校のそれぞれ 1〜3 年を表わす。また「－」は教科書掲載曲ではないことを表わす。

表 6　9 年間で 1 番印象に残った曲

楽曲名	掲載学年	回答数	割合(%)
旅立ちの日に	9	43	20.3
名付けれた葉	9	24	11.3
仰げば尊し	9	15	7.1
大地讃頌	9	10	4.7
時の旅人	8	7	3.3
親知らず	－	7	3.3
モルダウ	7	7	3.3
聞こえる	－	6	2.8
遠い日の歌	9	6	2.8
地球の詩	9	5	2.4
ふるさと	6，7，8，9	4	1.9
思い出は空に	8	4	1.9
COSMOS	－	4	1.9
Tomorrow	9	4	1.9
木琴	－	4	1.9
In terra pax	－	3	1.4
友だちでいようね	8	3	1.4
カントリーロード	9	3	1.4
旅立ちの時	－	3	1.4
マイバラード	7	3	1.4
翼をください	6，8	2	0.9
心の瞳	－	1	0.5

楽曲を分析すると，中学校の教科書または副教材としてこれまでに取扱われてきた合唱曲がほとんどである。

さらに，これらの楽曲が印象に残った理由を自由記述で尋ねたところ，表 7 に示した回答が得られた。この結果から，楽曲が印象に残った要因として，合唱を伴う学校行事が大きく関係していることが分かる。

表 7　楽曲が 1 番印象に残った理由

印象に残った理由	回答数	割合(%)
卒業式で歌ったから	67	31.6
合唱コンクールで歌ったから	50	23.6
歌詞やメロディーがいいから	23	10.8
文化祭で歌ったから	22	10.4
何度も歌ったから	17	8.0
好きだから	9	4.2

Ⅳ　調査結果の考察

1　歌唱共通教材に関する分析

小学校の歌唱共通教材及び，中学校の新学習指導要領で再び歌唱共通教材として示された楽曲に関して，認知度，歌唱経験，嗜好度の調査結果を表 8 にまとめて示し，分析を試みた。

表 8　歌唱共通教材についての調査結果

教材名	教科書の掲載学年	楽曲認知度の割合（%）	歌唱経験の割合（%）	嗜好度5段階評定の平均値
ひらいた ひらいた	1	91.0	40.7	3.0
かたつむり	1	98.1	63.8	3.3
うみ	1	99.5	74.8	3.5
ひのまる	1	12.9	5.3	2.5
かくれんぼ	2	67.6	11.4	2.7
夕やけこやけ	2	96.2	70.5	3.2
はるが きた	2	100	80.0	3.4
春の小川	3	83.8	61.0	3.1
茶つみ	3	82.9	62.7	3.2
うさぎ	3	33.8	15.2	2.7
ふじ山	3	27.6	15.7	2.7
さくら さくら	4	93.8	66.0	3.1
とんび	4	72.9	49.5	3.0
まきばの朝	4	27.1	13.8	2.8
もみじ	4	96.2	81.0	3.3
こいのぼり	5	45.7	21.9	2.9
冬げしき	5	11.8	6.2	2.6
スキーの歌	5	23.1	11.9	2.8
子もり歌	5	91.0	19.8	2.8
おぼろ月夜	6	77.8	54.2	3.1
われは海の子	6	77.4	47.2	3.0
ふるさと	6，9	98.6	93.4	3.3
越天楽今様	6	10.4	5.2	2.6
花の街	7，9	20.4	11.4	2.7
浜辺の歌	8	41.0	35.7	2.9
夏の思い出	8	36.3	12.8	2.8
荒城の月	8	52.8	30.3	2.7
花	9	94.8	81.6	3.3
早春賦	9	35.8	15.6	2.8

楽曲の認知度と歌唱経験に関して全体の値を比較すると，同じ歌唱共通教材であるにも関わらず，楽曲により大きな差異があることがわかる。認知度と歌唱経験の値の関係から，次のア，イ，ウの3つの群に分けて分析を行う。

ア　認知度が80%以上であり，歌唱経験の割合が60%以上あるもの
　うみ　かたつむり　はるがきた　虫のこえ　夕やけこやけ　茶つみ　春の小川
　さくらさくら　もみじ　ふるさと　赤とんぼ　花

イ　認知度は60%以上あるが，歌唱経験の割合が50%未満であるもの
　ひらいたひらいた　かくれんぼ　とんび　子守り歌　われは海の子

ウ　認知度，歌唱経験の割合がともに50%未満であるもの
　ひのまる　うさぎ　ふじ山　まきばの朝　こいのぼり　スキーの歌　冬げしき
　越天楽今様　早春賦　夏の思い出　花の街　浜辺の歌

アの楽曲群については，認知度が高く，歌唱経験の値も6割以上であることから，音楽科授業において指導されたことが伺える。

イの楽曲群については，60%以上のものが知っているにも関わらず，歌唱経験の割合が50%未満であることから，音楽科授業において十分指導されていない実態が伺われ，むしろ就学前教育あるいはマス・マディア等により楽曲を認知していた可能性もある。

ウの楽曲群については，「ひのまる」「冬景色」「越天楽今様」など認知度，歌唱経験ともに著しく低い楽曲もあり，音楽科授業においてほとんど指導されていない実態が伺われる。また「ひのまる」を除く全てが小学校中学年以上で学ぶ楽曲であるため，就学前教育で指導される可能性は低く，テレビの子ども向け番組などマス・メディアで取り上げられたり，街中のBGMなど地域の環境の中で触れ合う機会も少なかったと考えられる。

2　歌唱共通教材の今後の指導の在り方

文部科学省は，今回改訂した新学習指導要領に伴う『小学校学習指導要領解説』の中で，歌唱共通教材の意義について次のように述べている。「多くの人々に長い間親しまれてきた日本のうたには，唱歌や童謡など，児童が豊かな表現を楽しむことのできるものが数多くある。人々の生活や心情と深くかかわりをもちながら，世代を超えて受け継がれてきた我が国の音楽文化といえるものであり，また，季節や自然などを美しい現象としていとおしんできた日本人の感性が息づいている音楽とも言える。」[3] また『中学校学習指導要領解説』の中では，「音楽の共通教材は，我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの，我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるものなどを含んでおり，道徳的心情の育成に資するものである。」[4] とも述べている。

これらの趣旨を踏まえるとすれば，単に楽曲を繰り返し練習し，正確に歌えるようになることを目指すことに留まらず，教科書の楽譜の周辺に示されている楽曲解説を効果的に活用したり，当時の日本の風景や人々の様子が記録されている映像などを紹介することにより，その歌に描かれている日本の美しい自然や人々の生活の営みなどを追体験させながら，児童・生徒の心情に訴えかける学習を進めていく工夫が必要であろう。

また，現代の子どもたちは，マス・メディアの発達により，日常生活においてさまざまな音楽に触れ親しんでいる。すなわち，普段から複雑な和声進行やリズムによる音楽を頻繁に聴いていることによって，音楽科授業における歌唱共通教材とのギャップがかなりあるとも考えられる。授業で取り扱う教材は，どちらかといえば単純な和声進行による伴奏によって，あまり複雑でないリズムでできた旋律を歌うことが多い。そうであるとすれば，素朴な旋律に描かれている詩の本質を教師の指導で子どもたちにわかりやすく伝えなければならない。さらに，I，IV，Vの主要三和音のみの機械的な伴奏でなく，色彩豊かな魅力ある伴奏を工夫することにより，子どもたちに気持ちよく歌わせる取り組みも必要であろう。

また，はじめて楽曲に出会う機会ともなる範唱を鑑賞させる際に，児童・生徒に感動を与えることのできる，より良い演奏で美しい日本語の響きを子どもたちに感じ取らせたい。

このように，歌唱共通教材を指導する際に子どもたちに最初に与える楽曲の印象が，その後の楽曲のイメージや嗜好に影響を与えることに考慮して，楽曲との出会いを大切にさせたいものである。

V　まとめ

小・中学校の歌唱教材に関する調査研究を行ったことにより，小・中学校音楽科教科書に掲載されていた歌唱教材に関して，筆者がこれまでほとんど知らなかった楽曲が多数あることがわかり，あらためて，小・中学校の歌唱教材について研究することの重要性を再認識した。高等学校の音楽科教師は，生徒が小・中学校の音楽科授業において，どのような楽曲で何を学んできたのかを十分把握する必要がある。さまざまな楽曲があるだろうが，少なくとも教科書掲載曲については十分研究し，高等学校の授業展開において効果的に活用できるよう努めたいと考える。

〈参考・引用文献〉

・畑中良輔ほか『中学生の音楽 1』教育芸術社，平成 13 年検定済，2002。
・畑中良輔ほか『中学生の音楽 2・3 上』教育芸術社，平成 13 年検定済，2002。
・畑中良輔ほか『中学生の音楽 2・3 下』教育芸術社，平成 13 年検定済，2002。
・畑中良輔ほか『中学生の音楽 1』教育芸術社，平成 17 年検定済，2006。
・畑中良輔ほか『中学生の音楽 2・3 上』教育芸術社，平成 17 年検定済，2006。
・畑中良輔ほか『中学生の音楽 2・3 下』教育芸術社，平成 17 年検定済，2006。
・畑中良輔ほか『MOUSA1』教育芸術社，平成 18 年検定済，2007。
・畑中良輔ほか『MOUSA2』教育芸術社，平成 19 年検定済，2008。
・畑中良輔ほか『小学生の音楽 2』教育芸術社，平成 11 年検定済，2001。

---

[3] 文部科学省『小学校学習指導要領解説音楽編　平成 20 年 8 月』教育芸術社，2008，p.72。
[4] 文部科学省『中学校学習指導要領解説音楽編　平成 20 年 9 月』教育芸術社，2008，p.57。

・畑中良輔ほか『小学生の音楽 3』教育芸術社，平成 11 年検定済，2001。
・畑中良輔ほか『小学生の音楽 4』教育芸術社，平成 11 年検定済，2001。
・畑中良輔ほか『小学生の音楽 4』教育芸術社，平成 13 年検定済，2002。
・畑中良輔ほか『小学生の音楽 5』教育芸術社，平成 13 年検定済，2002。
・畑中良輔ほか『小学生の音楽 6』教育芸術社，平成 13 年検定済，2002。
・市川都志春ほか『小学生のおんがく 1』教育芸術社，平成 7 年検定済，1996。
・市川都志春ほか『小学生の音楽 2』教育芸術社，平成 7 年検定済，1996。
・文部科学省『小学校学習指導要領解説音楽編　平成 20 年 8 月』教育芸術社，2008。
・文部科学省『中学校学習指導要領解説音楽編　平成 20 年 9 月』教育芸術社，2008。